

【導入事例】矢作建設工業 DX推進部門の業務依頼にBacklogを活用し、担当者と進捗状況を可視化

株式会社ヌーラボ（本社：福岡県福岡市、以下 ヌーラボ）が提供するプロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」は、矢作建設工業株式会社（本社：愛知県名古屋市、以下 矢作建設工業）に導入され、同社デジタル推進グループの業務依頼と進捗管理に活用されています。



※以下、事例取材記事『[プロジェクト管理は「学んでから」より「Backlogを使いながら」。総合建設会社が選ぶDXへの近道](#)』から抜粋・編集・再構成。

■「Backlog」を導入した背景

矢作建設工業は、建築・土木・不動産を中心に事業を展開する総合建設会社です。同社のエンジニアリングセンター デジタル推進グループは、これまでの経験やノウハウを活かしながら、データも判断材料として活用できる組織を目指し、全社的なDXを推進しています。

同グループでは、仕事の進め方が案件ごとに異なっていたため、グループ全体の進捗状況の把握に手間がかかっていました。日々の依頼に用いていたチャットツールでも、過去のやり取りや対応経緯の確認に手間がかかる状態でした。こうした状況を受け、ツールを使いながらプロジェクト管理の進め方を身につけられる体制を目指し、Backlogを導入しました。

■「Backlog」を活用した取り組み

マニュアルの読了をタスク化し、使いながら操作を習得

デジタル推進グループ全体へBacklogの利用を広げるにあたり、オンボーディング専用のプロジェクトを作成し、操作マニュアルと運用ルールを整備。メンバーにはマニュアルの読了をタスクとして割り当て、タスクの入力や状態の更新といった基本操作を、最初の業務を通じて覚える仕組みとしました。

チャットでの依頼をタスク化し、メンバーごとの残作業を確認

チャット中心だった業務依頼をBacklogのタスクに切り替え、依頼内容と担当者を記録。担当者や期限日でタスクを絞り込み、メンバーごとの残作業を可視化しています。タスクは案件・工程・作業の3階層で構成し、作業単位のタスクは工程を任されたメンバーが作成する運用としています

社外パートナーのBacklog利用に向け、ルールへの同意手順を用意

Excelのタスク管理表で行っていた社外パートナーとのやり取りをBacklogへ移すにあたり、利用ルールを掲載した確認用のプロジェクトをBacklog上に作成。社外パートナーには、ルールの読了タスクを完了してから業務用のプロジェクトに参加する手順とし、運用方法を社外利用者とも認識を合わせたうえで業務を進めています。

■ 矢作建設工業 担当者のコメント



エンジニアリングセンター デジタル推進グループ 係長 濱田氏

「ツールを使うこと自体が、プロジェクト管理手法の実践になる」という導入の狙いについては、手応えを感じ始めています。タスクを依頼し、受けた側が対応して戻し、依頼した側が確認して完了にするという流れが、Backlogの利用を通じてメンバーに浸透しつつあります。

今後は、デジタル推進グループ内での活用を定着させたいと考えています。また、タスクごとに判断の経緯を残していくことで、2回目以降の仕事は定型業務としてのマニュアル化や、ほかの人・外部への依頼につながられます。Backlogに蓄積した知見を組織の資産とし、業務の属人化を防げると期待しています。

■ Backlogについて

Backlog（バックログ）は、チームで働くすべての人が使えるプロジェクト・タスク管理ツールです。課題管理やガントチャート、ドキュメントなどの機能を通じて、チーム全体の進捗や役割分担を一元管理し、情報共有・タスク管理の効率化を支援します。

<https://backlog.com/>

■ 株式会社ヌーラボについて

代表取締役：橋本正徳

本社：福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号 ONE FUKUOKA BLDG. 7階

東京事務所：東京都港区芝大門二丁目1番16号 +SHIFT SHIBADAIMON B1F

コーポレートサイト：<https://nulab.com>

採用サイト：<https://careers.nulab.com/>

ヌーラボは、2004年の創業以来、プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」をはじめ、オンラインホワイトボードツール「Cacoo」、ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」、組織の情報セキュリティ・ガバナンスを高める「Nulab Pass」など、業種や職種を問わず利用できるクラウドサービスを開発・提供しています。組織における情報の蓄積・共有・活用を通じて、チームや部門を越えた業務の推進を支援するナレッジプラットフォームです。